

つて下さり、とても親しみを覚えさせて頂きました。

この度、亡き父等の眠る戦没者に参らせて頂き、亡き父等の眠る戦没者に参らせて頂きました。

これも日本遺族会、厚生労働省、ご支援の賜物と心よりお礼申し上げます。



「ボルネオ慰靈友好親善訪問団」 参加報告書

広島市東区 垣内田 郁代

戰後六十年という節目の年に当る今秋。先の大戦及び戦後において、祖国のために尊い命を捧げられた靖国の英靈を慰靈するため、日本政府事業、日本遺族会、広島県遺族会、広島市遺族会、株式会社小田急トラベル、その他多くの方々の温かい励ましと、ご支援により、始め

ての海外への不安を胸に慰靈巡拝の旅に出発した。

全国から参加した遺児の二十二名は、ボルネオ島のマレイシア側を北廻りに巡拝するA班と、インドネシア側を南廻りに巡拝するB班に分かれ巡拝の旅が始まりました。

「欲しがりません、勝つまでは」と、耐久精神を国民学校でたたき込まれた軍国少年少女たちは、「銃後を守れ」と遺言した亡父の遺志を胸に、父亡き後の戦後を祖父母、母、幼い弟妹を助け、厳しい時代に、甘える事も許されず、六十年という歳月を生き抜き、今では、還暦や古希を迎えて、白髪も増え、子や孫に囲まれ、やっと肩の荷をおろした者同志、打ち解けるのに時間は不用。互いに助け合い、励まし合って、午前四時起床の日もある、厳しいスケジュールの慰靈の旅が続いた。

航空機の乗継ぎ七回。出入国八回。セレベス海の荒海の真中で、エнстトを起し、木の葉のように揺れる小さな船での旅。四〇四メートルのキナバル山中腹のジャングルの間も走る、七時間近いバスでの移動。

旅行者の姿は、一人も見当らない、現地人だけ住むバリクパパンの山村に、訪づれる者もなく、淋しくたたずむ、亡き父の慰靈碑の前では、日本は戦後めざましい发展を遂げ、今では世界のすみずみまで行く事が出来る時代になつたにもかかわらず、墓参が今日に至つた事を深く詫び、悲しい時、苦しい時、淋しい時には、靖国の英靈を父にもつ誇を胸に、「親の無い子」と、世間から後指を差されないように、世の中のお役に立てるよ



寒さもゆるみはじめた、三月の中旬、中国慰靈友好親善訪問団の一員として参加し、積年の思ひをかなえることが出来ました。全国から四十五名参加され、それぞれ戦没地域が異なる為、ABCの三班に班別され、私はA班十八名の一員に、総括團長、森田次夫、「日本遺族会副会長」ほか、「團長補佐」、添乗員とで二十一名がグループとして最後迄ご一緒させていただきました。靖國神社に参拝し慰靈の旅の思いを誓い、成田発十時四十五分空路、中国に向って飛び立ちました。現地時間十二時四十五分、上海浦東国際空港に着陸、夢に見た父の眠る中国の地に一歩を印した。ここで各班は別行動となり、A班は森田團長に引率され、ここで現地ガイド二名で、バスにて早速足跡を巡る慰靈の旅が始まる。最初の目的地、

うに、苦難の道を一山一山越えてきた事を報告し、遺された人生を、誰かのためにお役に立てるよう、微力を尽くす事を誓つた。○○○名いた大隊が、五〇〇キロにわたるジャングルの道無き道を行軍中、糧秣は不足し、飢餓を疾病のため目的地に着いた時には、わずか十数名になつていたという事を知り、流木や小石を集めて国旗を立て、供物・供花のもと、般若心経を読誦し、菊の花を川面に浮かべ、赤道直下の炎暑の下、滴り落ちる汗と涙。流れ行く菊の花をいつまでもいつまでも見送り、幾多の英靈の冥福を祈ると共に、戦争の悲惨を語り継ぐ使命を自覚した。

最後に、A班七ヶ所、B班四ヶ所の慰靈巡拝の旅を終えた参加者全員が、ラブ

平成十七年慰靈の旅を終えて
尾道遺族会 福島 弘

アン平和公園にある「ボルネオ戦没者の碑」の前で、ボルネオ地域及び海域の「全戦没者追悼式」W.P.終え、世界各地で実施されている当事業を未参加の遺児の皆さんに周知徹底する事を胸に誓い帰国途についた。

以上

未筆になりましたが、慰靈巡拝のお世話になりました。日本政府を始め、日本遺族会、広島県遺族会、広島市遺族会、株式会社小田急トラベル、各国の旅行業者、参加者の遺児の皆さん方に、衷心より厚く厚くお礼申し上げます。

寒さもゆるみはじめた、三月の中旬、

中国慰靈友好親善訪問団の一員として参

加し、積年の思ひをかなえることが出来

ました。全国から四十五名参加され、そ

れぞれ戦没地域が異なる為、ABCの三

班に班別され、私はA班十八名の一員に、

総括團長、森田次夫、「日本遺族会副会

長」ほか、「團長補佐」、添乗員とで二十

一名がグループとして最後迄ご一緒させ

ていただきました。靖國神社に参拝し慰

靈の旅の思いを誓い、成田発十時四十五

分空路、中国に向って飛び立ちました。

現地時間十二時四十五分、上海浦東国際

空港に着陸、夢に見た父の眠る中国の地

に一歩を印した。ここで各班は別行動と

なり、A班は森田團長に引率され、ここ

で現地ガイド二名で、バスにて早速足跡

を巡る慰靈の旅が始まる。最初の目的地、